

中年女性における既製衣料サイズの認識と問題点

原田 妙子・福尾 実千

Recognition of Ready-made Clothes Size in Middle Age Women and the Involved Problems

Taeko HARADA and Michi FUKUO

緒 言

われわれの衣生活において、ほとんどの人が既製衣料を着用しており、必要不可欠なものとなっている。これは、流行に敏感な若い女性のみならず、中年、あるいは老人においても同様であり、以前に比べてどの世代においても非常におしゃれになっている。

若い女性についての身体寸法と既製衣料の認識度については、すでに報告している¹⁾。流行に敏感であるはずの女子大学生でさえ、自分の身体寸法の認識度は、バストで68.2%、ウエストで73.1%であり、ヒップはさらに低く49.7%という結果であった。また、あまり正確でない認識値によって既製衣料のサイズが選ばれていた。

そこで、基礎代謝の低下や女性ホルモンの減少をきっかけとして、ウエストのくびれがなくなったり、上半身のサイズが大きくなるなど、体型が目に見えて変化し始める30～50歳代の女性²⁾においては、既製衣料の購入に当たって、自分の体型をどの程度把握しているのかという疑問を持ち、調査検討を行った。

また、既製衣料は若い女性をターゲットとしていることが多く、市場にはファッション関係の商品があふれている。しかし、中年以上の女性をターゲットにしたものは限られており、既製衣料を選ぶ際にはいろいろと問題点があると推察されるため、それを把握することを目的とし、さらに調査を行った。

方 法

1. 調査対象者は、女子大学生の母親67名である。年齢構成、および職業については図1に示す。年齢の内訳は30歳代5名、7%、40歳代55名、83%、50歳代7名、10%であり、ほとんどが中年として女性の体型が変わるターニングポイントから、老年としてのターニングポイントまでの間に含まれている。また、職業の有無についてみると、全く働いていない人は18%であり、専業（フルタイム）18%を

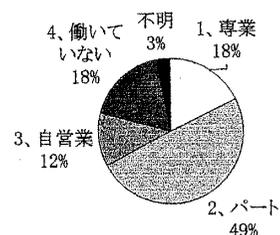
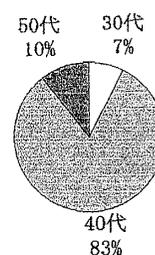


図1 被験者の年代および職業

む79%の人が、何らかの形で仕事に就いている。

2. 調査時期は、2003年7月である。
3. 調査方法は、留め置き法によるアンケート調査である。
4. アンケートの内容は、調査対象者の属性、自分が認識しているバスト、ウエスト、ヒップ、身長、自分の既製衣料を購入するときの上衣(ブラウスやジャケットなどの比較的体に合っているものの号数、Tシャツ・セーターなどの範囲表示)・下衣(ズボン・スラックスなど、ジーンズなど、スカート：ウエストがきっちりしていてゴムでないもの)のサイズ、実際の身体寸法、市場で売られている既製衣料に関する問題点(記述)である。なお、実際の身体寸法は、アンケートの最後に置き、計測方法を明示すると同時に、服飾を専門に学んでいる学生に計測してもらうよう指示を与えた。
5. 分析は、質問項目および実際の計測値と認識値との差を単純集計およびクロス集計し検討した。また記述による不満点についても検討を行った。

結果および考察

1. 身体計測値と認識値

1) 調査対象者の体型について

調査対象者の体型を把握するために、過去の研究で高い認識度が認められる身長³⁾については、認識値を用い、JISに準じてその分布を図2に示す。平均値は156.72cmであり、標準(R)を示す158cmが55%と最も多く、ついで小さい150cm(P)が26%、大きい166cm(T)が17%と続き正規分布をしている。身長以外のバスト(乳頭位胸囲)、ウエスト(胴囲)、ヒップ(腰囲)については、アンケート時に計測してもらった身体寸法を用いた。身体計測値の平均値は、バスト84.47cm、ウエスト68.45cm、ヒップ90.58cmである。分布状態を見ると、バストは83および86cmを中心にほぼ正規分布し、ウエストでは中心値は67cmであるが70cmが最頻値となっている。ヒップでは91cmを中心にほぼ正規分布している。一般的には、女性は中年になると筋肉が緩み年齢と共に下垂していくため、下半身が大きくなると想像されているが、それとは異なり、女子大学生に比べ、ウエストサイズの増加が大きく、次いでバストが増加しているが、ヒップは数値的にはほぼ変化がないと見られる。さらに日本人の人体計測データ⁴⁾と比較するために、モリソンの関係偏差折線を図3に示す。調査対象者は、全国の40歳代の女性と比較すると、身長はやや高いが、バスト、ウエスト、ヒップに関しては、やや小さい。しかし4項目とも±0.5σ内にあり、ほとんど差がないといえる。

2) バストの身体計測値と認識値について

調査対象者の身体計測値と認識値のヒストグラムを

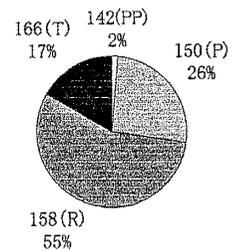


図2 身長(認識値)

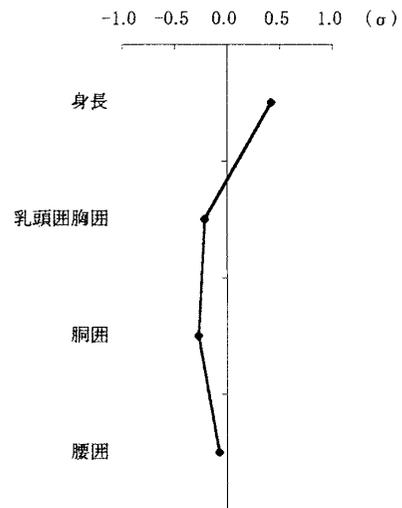


図3 平均値の比較

基準値『日本人の人体計測データ'92~'94 40~49歳』
人間生活工学研究センター

図4に示す。級間はJISの成人衣料サイズに準じて92cmまでを3cm、それ以上を4cmピッチとした。

自分の認識しているバストサイズを答えた人は、86.57%であり、女子大学生が68.2%であったのと比較すると、かなり高い値を示している。平均値を見ると、認識値は83.55cmであるのに対して身体計測値は84.47cmと、実際の値より小さく認識されており、さらに身体計測値が83・86cmを中心にほぼ正規分布を示しているにもかかわらず、認識値は80～89cmに67.16%の半数以上が出現している。女子大学生が計測値より認識値のほうが大きかったのに対して、中年の女性は、体型の崩れをやや意識し、全体的には小さいほうに偏って認識しているが、80cm台でありたいという願望もあると推察できる。

3) ウエストの身体計測値と認識値について

バストと同様に、各自のウエストの身体計測値と認識値のヒストグラムを図5に示す。級間もバスト同様3cmピッチとした。

自分のウエストサイズを答えた人は、バストより多い92.54%である。ウエストサイズはスカートやパンツといったボトム系の既製衣料を購入するときには必ず必要となる身体寸法であることから、かなり認識されているものと考えられる。しかし、平均値で見ると、認識値は65.58cm、身体計測値は68.45cmと3cm近く小さく認識されている。分布においても、実際の身体計測値の範囲は58～84cmにわたるのに対して認識値は58～76cmとせまく、特に計測値では64～70cmが多く、70cmがピークにあるのに対して、認識値は64・67cmに集中しており、ミセスの既製衣料を扱っている小売店などに多くおかれているスカートのサイズに影響を受けているとみられる。

4) ヒップの身体計測値と認識値について

ヒップについても、各自の身体計測値と認識値を、級間がJISに合わせて2cmピッチとしたヒストグラムを図6に示す。

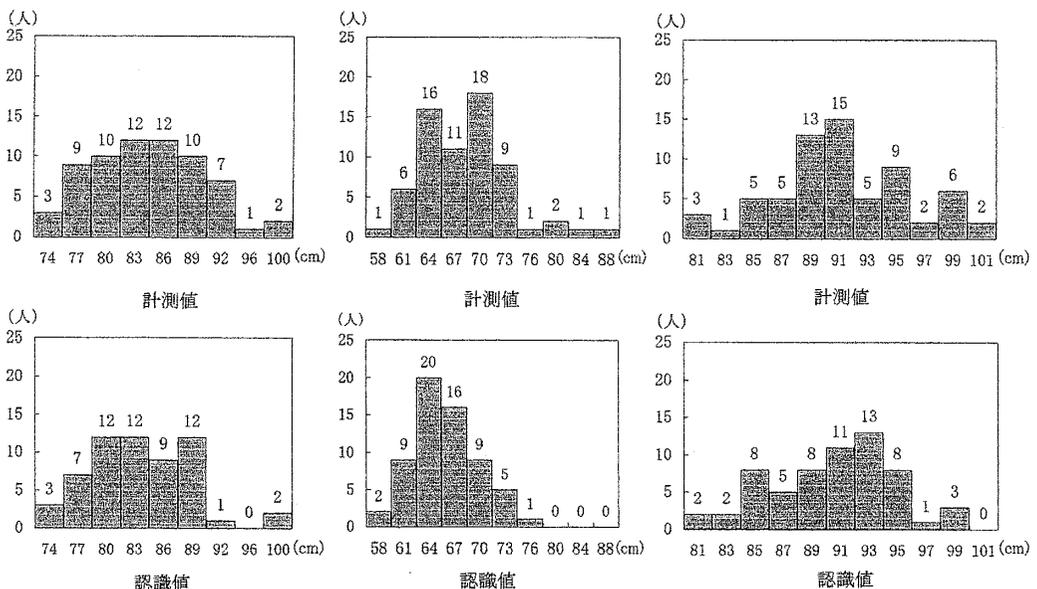


図4 バストの身体計測値と認識値 図5 ウエストの身体計測値と認識値 図6 ヒップの身体計測値と認識値

ヒップにおいては、自分のサイズを回答した人は91.04%であり、ウエストよりはやや低いものの、かなり高い値であるといえる。さらに、平均値では、計測値が90.58cm、認識値が89.93cmであり、先のバストとウエスト同様に認識値のほうが小さいが、出現範囲と分布では、ほぼ近似の様相を呈している。これは、既製衣料のサイズ表示では直接ヒップサイズが数値として表されていることがないため、認識値が誘導されることが少ないと考えられる。

5) 身体計測値と認識値とのずれについて

バスト、ウエスト、ヒップの3サイズにおいて、身体計測値と認識値との差をみるために、認識値から計測値を差し引いたものを求め、クロス集計をおこなった。縦軸に差を、横軸に身体計測値をとり、表1～3に示す。差がマイナス値を示すものは、実際の身体寸法より小さく認識しており、プラス値を示すものは、大きく認識していることを表している。

まず、表1に示したバストについてみると、両者が一致している人は17名であり、自分のバストサイズを回答した人の28.33%を占める。女子大学生と比較するとやや高く、調査対象者全体では、25.37%である。差の出現範囲は、-8～6cmとなり女子学生より狭い範囲となる。差の出現傾向は、80cmと83cmの間で変化し、83cm以上は差がマイナス値の人が多く、実際の身体計測値よりも小さく

表1 身体計測値(胸囲)と認識値(バスト)の差

差※	計測値										バスト					合計
	74	77	80	83	86	89	92	96	100	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入		
6					1										1	
5															0	
4			1				1								2	
3															0	
2			3												3	
1			2	3			1								6	
0	2	1	3	4	3	3				1					17	
-0.5							1								1	
-1				1	2	3	1	1							8	
-2			1		3	1		2			1				8	
-3			1	1		1	1	1							5	
-4					1			1							2	
-5								2							2	
-6							1								1	
-7										1					1	
-8											1				1	
未記入	1		2	1	1	1	2					1			9	

表2 身体計測値(胸囲)と認識値(ウエスト)の差

差※	計測値										ウエスト					合計
	58	61	64	67	70	73	76	80	84	88	未記入	未記入	未記入	未記入		
1			1	1											2	
0		1	2	5	2	5	1								16	
-1			1	2	2		1								6	
-2			2	3	2	2	2								11	
-3				2	3	6	2	1							14	
-4					1	2									3	
-4.5				1											1	
-5				1		1									2	
-6						2									2	
-7							1		1						2	
-8															0	
-9							1								0	
-10															1	
-11							1								0	
-12															1	
-13												1			1	
未記入				1	1					1	1			1	5	

表3 身体計測値(腰囲)と認識値(ヒップ)の差

差※	計測値										バスト					合計
	81	83	85	87	89	91	93	95	97	99	101	未記入	未記入	未記入		
5			1												1	
4															0	
3															0	
2				1		1	1								3	
1.5						1	2				1				4	
1							1								1	
0.5			1		1	2	2			3					9	
0	1														1	
-1		1	2			3	6	2	3			2			20	
-2					2	2	2	1	2						9	
-3								1							1	
-4						1	1								5	
-5							2		1						3	
-6									1						1	
-7												1	1		2	
-8															0	
未記入						1	1	1				1	1	1	6	

※差=認識値-計測値

認識している人が多い。逆に、80cm以下では、プラス値の人が多く大きく認識している。既製衣料において、バスト 83cmが標準と設定されていることに起因しているものと考えられる。

次に、表 2 に示したウエストについては、回答した人は女子大学生より高い値を示していたものの、身体計測値と認識値とが一致した人は 25.86%と、女子大学生より低くなっている。差は -13~1cm であり、15cm の範囲は女子大学生と同様ではあるが、マイナス値を示す人がかなり多く、認識値の小さい人がほとんどである。特に身体計測値 70cm の人に 3cm の差が多く見られる。これは、既製のスカートのウエスト寸法には、2~3cm のゆとりが入れていることを把握しておらず、自分が着用可能なスカートのサイズで、ウエスト寸法だと理解しているためかと推察する。

表 3 に示したヒップについては、差がなく認識している人は回答のあった人の 20 名、32.7% であり、女子大学生と近似の値を示している。しかし、バストとウエストに比べ、±1cm の差が少ないといえる人を見ると、39 名、63.93% と半数以上の人がほぼ正しく認識しているという結果であった。先に述べたように、ここでも既製衣料のサイズ表示では直接ヒップサイズが数値として表されていることがないため、認識値が誘導されていないことが確認できた。

2. 既製衣料のサイズ

既製衣料のサイズは、日本工業規格 (JIS) によって決められており、成人女子用は『JIS L4005-1997』⁹⁾ において示されている。フィット性を必要とする衣料については、身長を PP・P・R・T の 4 つに区分した上で、それぞれのバストとヒップの組合せにおける出現率によって、A・Y・AB・B の 4 つの体型に分類され、バストのサイズによって 3~31 号に分けられ表示されている。ウエストサイズについては、年代によって差が見られるため、参考として上げられている。

そこで、中年の女性が既製衣料の購入時に何を基準にサイズを決定しているかを見るために、分析を行った。以下にその結果を上衣と下衣に分けて述べる。

(1) 上衣について

まず、フィット性を必要とする既製衣料のサイズの認識度についてみる。既製衣料を選択する時には、それぞれが自分で認識しているバストサイズが基となっていると考えられるため、自分が購入するときを選ぶ衣料サイズとのクロス集計結果を表

表 4 バストの認識値による号数と認識号数

認識号数 \ 認識値	バスト								合計	
	3	5	7	9	11	13	15	17		未記入
7	1	2	2	1						6
9	2	5	8	6	1	1			3	26
11			3	5	6	5	1	1	1	22
13				1	2	5		1	2	11
未記入						1			1	2

4 に示す。認識値と認識号数の両者を回答できた人は、59 名で 88.06% を占め、半数にも満たなかった女子大学生に比べ、非常に高い値を示している。しかし、衣料サイズの意味を理解できていると考えられる両者が合致している人は、19 名、28.36% と低いといえる。特に、バストの認識値が小さい 74・77・80cm の人は、1 サイズあるいは 2 サイズ大きな衣服を購入している。これは、既製衣料購入の際に、間違った既製衣料サイズを認識していることが推察できる。そこで、それぞれのバストサイズの認識値とバストの実際の身体計測値から導き出した既製衣料サイズ (号数) とのクロス集計の結果を表 5 に示す。両者が合致している人は、33 名、49.3% を占め、女子大学生に比べかなり高い値を示している。バストの認識値と認識している衣料サイズとが違うことから、意識して大きめの衣服を購入しているか、あるいは成人女子の衣料サイズが正確に理解できないことが考えられるが、試着することが浸透してきているためか、比

較的適合したサイズの衣服を購入しているという結果となっている。さらに、既製衣料の購入は、職業に起因するとも考えられるため、就業状態ごとの号数正解数を図7に示す。認識号数が実際の号数より大きい人の割合はどのグループにおいてもほぼ同じであるが、両者が一致している割合が大きいのは、パートタイマーと働いていない人である。また、認識号数のほうが小さい人は、フルタイムで働いている人(専業・自営)に多く、他人の目を意識しての結果か、あるいは動きなどを考慮して体にフィットさせたいための結果かと思われる。

S・M・Lで表されるTシャツやセーターなどの、範囲表示についての結果を表6に示す。Mサイズが32名、47.76%とほぼ半数が選んでいる。またLサイズは20名、29.85%である。ここで、Sサイズを選んだ人は2名だけであり、Sに相当する人は、身体計測値では7名、認識値においては11名の出現が見られるにもかかわらず、カジュアルな衣服については大きいサイズを選び、ゆとりのある衣服を着用していることがわかる。また、現在の若い女性の流行の傾向が、比較的ゆるみの少ないシルエットであり、市販されている衣服もその傾向のものが多いことから、体のラインが出にくい大き目のものを選んでいるようである。

表5 バストの身体計測値による号数と認識値

認識値	バスト									合計
	74	77	80	83	86	89	92	96	未記入	
3	2								1	3
5	1	5	2	1						9
7		2	7	1						10
9			3	7		1			1	12
11			1	2	6	2			1	12
13				1	3	5			1	10
15				1		3	1		2	7
17						1				1
19								2		2
未記入									1	1

表6 上衣の購入選択の既製衣料サイズ

範囲表示	人数
S	2
M	32
M・L	6
L	20
LL・L	2
LL	2
号数表示を回答	3
合計	67

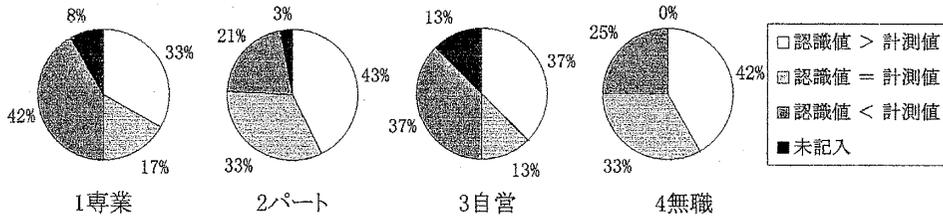


図7 職業別に見た認識値と計測値における号数

(2) 下衣について

下衣については、ズボン・スラックス、ジーンズ、スカートの3種について、購入時に目安とするサイズを記入してもらった。集計結果を表7に示す。

まず、ズボンについてみると、未記入あるいは履かないと回答した人は8名あり、以前に比べるとズボンが日常着に浸透していることがわかる。成人女子用衣料において、ズボン類のサイズ表示は、ウエストとヒップあるいはウエストの単数表示か、S・M・Lの範囲表示と決められているが、今回のアンケートで正しい表示方法で回答した人は45名であった。その中で単数表示のウエストを答えた人は27名あったが、改正JISの規定にない数値を上げた人がほぼ1/4の7名見られた。また、範囲表示のS・M・Lを記入した人は18名であり、やや緩み始め

表7 下衣の購入選択の既製衣料サイズ

ズボン				ジーンズ				スカート			
サイズ	人数		計	サイズ	人数	計	サイズ	人数		計	
	認識	JIS						認識	JIS		
58cm	2	2	27	27インチ	1	20	58cm	2	2	43	
60cm	1			28インチ	6		60cm	4			
61cm	2	3		29インチ	3		61cm	2	6		
63cm	3			30インチ	4		63cm	8			
64cm	4	7		31インチ	4		64cm	3	11		
67cm	8	9		32インチ	2		66cm	2			
68cm	1			60cm	1	67cm	12	16			
69cm	1			61cm	2	68cm	2				
70cm	3	4		64cm	2	70cm	5	5			
73cm	1	1		67cm	3	73cm	1	1			
75cm	1			70cm	1	75cm	1				
76cm		1		73cm	2	76cm	1	2			
7号	2			7号	2	7号	2				
9号	4			9号	1	9号	3				
11号	3			11号	2	11号	3				
11～13号	2			13号	3	13号	4	12			
13号	4	15	S	2	L	4					
S	2		M	2	M	1					
M	5		L	3	M・L	1					
L	10		LL	1	ウエストがきっちりしてるもの	1	7				
LL	1		はかない・未記入	8	はかない・未記入	7	7				
はかない・未記入	8	8									

(複数回答)

(複数回答)

た体型からか、ウエストにゴムなどが使用されているズボンを選んでいることがわかる。しかし、号数で回答した人も15名もある。成人女子の衣料サイズの号数は、バストサイズを示すものであるため、一般的には単品では号数だけの表示はしないが、ズボンのサイズを号数だけで回答されているということは、市販のズボンがこの形で販売されていることを表している。

ジーンズについては、未記入あるいは履かないと回答した人は22名あり、ズボンが日常生活にかなり普及しているのに対して、ジーンズの比率が67.16%と比較的低い。しかし、インチで回答した人がジーンズのサイズを上げた人の半数近くあった。これは、今回の調査対象者の年代では、ジーンズが若い頃に日本に導入されているので、ジーンズに馴染みがないというよりは、年齢と共に着用しなくなった人がいると思われる。さらに、現在の年齢まで着用し続けている人がいるということが、サイズをインチで答える人が多かった結果からも推察できる。

スカートでは、未記入あるいは履かないと回答した人は7名あり、ズボンと同様生活に普及している。スカートのサイズもズボン同様、ウエストサイズで示す単数表示と、S・M・Lの範囲表示とである。ウエストサイズを答えた人は、43人と多く64.18%を占めるが、17名がズボンと同様、JISの規格にないサイズを答えている。これは、1997年にJISの改正が行われる前の規格にある数値を、多くの人が答えているためと考えられる。特に間違った数値では、ウエスト63cmの人が多く、市販のスカートで一般に多くおかれているサイズである。また、ズボンよりも範囲表示のものを答えた人は少なく、スカートに関しては比較的サイズを意識して、購入していると思われる。しかし、ここでも号数で回答した人も12名もある。ズボンだけでなくスカートのサイズも号数だけで回答されていることは、ズボンに加え、この形で市販のスカートも販売されているか、あるいは、スーツとして上下を組み合わせる形でのサイズ設定かとも考えられる。

3. 既製衣料に関する問題点

中年女性においては、若い女性以上に既製衣料が浸透しており、ほとんどの人が既製衣料のサイズを答えていたことから、推察できた。しかし、若い女性をターゲットにしている市場が多い現代において、既製服に対する不満がかなりあることも想像できる。そこで、既製服を購入するに当たって、不満に思っている点について、自由に記述してもらった(複数回答)。その結果、問題点を上げていたのは半数に近い30名、44.78%である。上げられた内容を項目別に分類したものを、図8に示す。項目は、大きく分類すると「サイズ的な問題」「デザイン的な問題」「価格的な問題」「縫製上の問題」の4つに分けられ、衣服と体格の不一致から、サイズバリエーションの少なさなどのサイズに関する問題点を、回答した人の80%が上げており、かなり高い割合を占めている。具体的には、自分に合った号数を選んで、そこで丈や着丈・ズボン丈が合わない、そこでぐりやそでの太さが細すぎるなどが目立った。また、次に多かったデザインに関する問題点は、自分の体型に合ったサイズがある店では、地味である、デザイン的に垢抜けていない、デザインが気に入るとサイズが合わないなどが上げられている。価格面でも、同じ品質ではミセス向けの商品の方が高いなど、子供にお金がかかる年代なので気に入ったものは高価で買えないなどが上げられており、ミセスは気に入った衣服を選ぶことにかかなり苦労していることが伺われる。

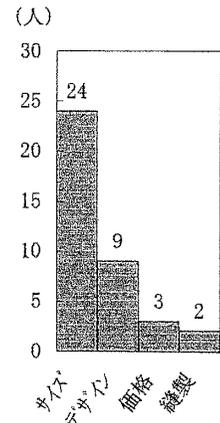


図8 既製服の問題点

要 約

流行に敏感である女子大学生でさえ、自分の身体寸法の認識度は低いという結果であり、それによって既製衣料のサイズが選ばれていた。そこで、体型が崩れ始める30～50歳代の女性において、自分の体型および既製衣料の認知度を知るため調査を行い、いくつかの知見を得た。バストの認識度は、女子大学生よりかなり高い値を示したが、体型の崩れをやや意識し、全体的には小さいほうに偏って認識している。ウエストはボトム系の既製衣料の購入時に必要な身体寸法であることから認識度は高いが3cm近く小さく認識されている。ヒップも認識度はかなり高く、身体計測値との差は少ない。これは、既製衣料のサイズ表示では直接ヒップサイズが数値として表されていないことがないため、認識値が誘導されることが少ないからと考えられる。既製衣料のサイズについて、ほとんどの人は自分のサイズを答えられるが、必ずしもその意味が理解できているといえない。さらに既製衣料のサイズに関する問題点が多く上げられ、ミセスは気に入った衣服を選ぶことにかかなり苦労していることが明らかになった。今後、様々な年代において、十分な衣生活が送れるように、既製衣料の在り方を考えたい。

文 献

- 1) 原田妙子, 吉田真理子: 女子学生の身体寸法と既製服寸法の認識度について, 名古屋女子大学紀要家政・自然編, 47,39～47(2001)
- 2) ワコール人間科学研究所: SPIRAL AGEING, 株式会社ワコール/広報室, 12～18(2000)

- 3) 香川由美, 津島由里子:女子学生の身体認識度と満足度について, 広島女子短期大学紀要, 32,13~19(1995)
- 4) (社) 人間生活工学センター:日本人の人体計測データ 1992-1994, (社) 人間生活工学センター (1997)
- 5) 日本工業標準調査会:成人女子用衣料サイズ JIS L4005-1997,2~8, 日本工業規格 (1997)

